【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和4年4月7日(2022.4.7)

【国際公開番号】WO2019/199506
【公表番号】特表2021-521589(P2021-521589A)
【公表日】令和3年8月26日(2021.8.26)
【出願番号】特願2020-555520(P2020-555520)
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｂ　3/10(2006.01)
Ｇ０１Ｋ　7/02(2021.01)
Ｈ０５Ｂ　3/00(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　3/44(2006.01)
Ｇ０１Ｋ　1/14(2021.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｂ　3/10　　Ａ
Ｇ０１Ｋ　7/02　　Ａ
Ｈ０５Ｂ　3/00　３１０Ｃ
Ｈ０５Ｂ　3/44
Ｇ０１Ｋ　1/14　　Ｌ

【手続補正書】
【提出日】令和4年3月30日(2022.3.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５３】
本開示のさらに別の形態が、図１１－１３に示され、流動浸漬加熱で使用するためのヒータが図示され、通常、参照番号２００で示される。ヒータ２００は、流体に浸漬するために構成された加熱部２０２を備え、加熱部２０２は、複数の抵抗加熱要素２０４、及び、加熱部２０２に隣接する少なくとも２つの非加熱部２０６，２０８を備える（図１１では、１つの非加熱部２０６のみを示す）。各非加熱部２０６，２０８は、長さを定め、複数の加熱要素２０４に電気的に接続された対応する複数のセットの電源ピンを備える。より具体的には、電源ピンの各セットは、第１の導電材で作られた第１の電源ピン２１２、及び、第１の電源ピン２１２の第１の導電材と異なる第２の導電材で作られた第２の電源ピン２１４を備える。第１の電源ピン２１２は、ジャンクション２２０，２３０，２４０を形成するように、非加熱部２０６，２０８内で第２の電源ピン２１４に電気的に接続される。さらに示すように、第２の電源ピン２１４は、加熱部２０２内に延びており、対応する抵抗加熱要素２０４に電気的に接続される。さらに、第２の電源ピン２１４は、第２の電源ピン２1４と抵抗加熱要素２０４との間の接続で、別のジャンクション又は測定可能な量の熱を生成しないように、対応する抵抗加熱要素２０４よりも大きい断面積を定める。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】

ここで、図１５を参照すると、一形態では、ヒータ４００は、温度を測定するためにヒータ４００内又はヒータ４００の外側に配置することができる主センシングジャンクションを含むように構成される。ヒータ４００は、抵抗加熱要素４０２、第１の電源ピン４０４、及び、第２の電源ピン４０６を含む。抵抗加熱要素４０２は、第１の端部及び第２の端部を有する。第１の電源ピン４０４は、第１のジャンクション４０８を形成するように、抵抗加熱要素４０２の第１の端部に接続され、第２の電源ピン４０６は、第２のジャンクション４１０を形成するように、抵抗加熱要素４０２の第２の端部に接続される。第１の電源ピン４０４及び第２の電源ピン４０６は、コントローラを介して加熱要素４０２に電力を供給する機能をする。